

2023年3月期 第1四半期決算説明会資料

2022年8月2日
株式会社ニチレイ

■ コスト上昇への対応を進め、通期計画達成をめざす

(単位：億円)

	第1四半期				通期				
	実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	658	70	12%	26%	2,730	288	12%	2,580	150
水産	160	11	7%	30%	531	△146	△22%	531	0
畜産	207	6	3%	24%	850	47	6%	850	0
低温物流	573	40	8%	24%	2,340	95	4%	2,340	0
不動産	11	0	2%	24%	46	3	7%	46	0
その他	10	△0	△3%	20%	49	7	17%	49	0
調整額	△58	△3	-	-	△216	10	-	△216	0
売上高合計	1,561	124	9%	25%	6,330	303	5%	6,180	150
加工食品	30	2	8%	21%	145	3	2%	145	0
水産	1	△1	△56%	10%	10	0	4%	10	0
畜産	2	△1	△35%	15%	16	4	37%	16	0
低温物流	34	△4	△9%	22%	153	7	5%	153	0
不動産	4	△0	△4%	23%	19	2	15%	19	0
その他	△0	1	-	-	△3	0	-	△3	0
調整額	△5	△0	-	-	△25	△16	-	△25	0
営業利益合計	67	△4	△5%	21%	315	1	0%	315	0
経常利益	70	△3	△4%	22%	319	2	1%	319	0
親会社株主に帰属する当期純利益	43	△1	△3%	20%	212	△22	△9%	212	0

- ・ 売上高は、主力の加工食品や低温物流が堅調に推移し増収
- ・ 営業利益は、低温物流の減益が響き、5%の減益
- ・ 通期見込は、第1四半期の進捗を踏まえ、売上高を上方修正

(単位：円)

為替レート (換算用)	2023年3月期 見込	2023年3月期 1Q実績	2022年3月期 1Q実績
米ドル/円	129.00	116.21	105.90
ユーロ/円	139.00	130.40	127.68
バーツ/円	3.70	3.52	3.50

(注) 為替レートの実績は1月～3月までの期中平均で算出している

■ 価格改定やコストコントロールを徹底し、通期計画達成を図る

(単位：億円)

		第1四半期				通期				
		実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高合計	658	70	12%	26%	2,730	288	12%	2,580	150
	家庭用調理品	193	5	3%	24%	804	36	5%	804	0
	業務用調理品	250	33	15%	26%	1,051	125	13%	973	78
	農産加工品	46	△4	△8%	22%	200	0	0%	208	△8
	海外	131	34	35%	29%	534	126	31%	454	80
	その他	37	2	6%	26%	141	1	1%	141	0
	営業利益	30	2	8%	21%	145	3	2%	145	0

第1四半期

【家庭用調理品】

- ・コロナ禍で急増した需要が定着するなか、今川焼などのスナック類の販売が好調

【業務用調理品】

- ・行動制限の緩和に伴い、外食向けが回復し中食向けも伸長
- ・チキン加工品やハンバーグ類などの主力商品が好調

【海外】

- ・米国のイノバジアン・クイジーン社による家庭用商品の販売が引き続き好調に推移

【営業利益】

- ・円安の進行に加え、原材料や物流費高騰などコストアップ影響を大きく受ける
- ・コストコントロールや価格改定を進めたほかGFPTニチレイ（タイ）の業績改善が寄与

通期見込

【家庭用調理品】

- ・生産が正常化したタイ産チキン加工品や、秋の新商品「極太つけ麺」などの個食商品を拡販

【業務用調理品】

- ・チキン加工品を中心に、引き続き大手ユーザー向けの取扱拡大に注力
- ・需要拡大の継続を見込み売上高を上方修正

【海外】

- ・米国では好調な販売は持続、タイでは需要の強い欧州向けの販売を強化

【営業利益】

- ・第2四半期以降さらなるコストアップ影響が顕在化
- ・コストコントロールの継続と、第2四半期から実施する価格改定を徹底し増益を確保

■コスト上昇の影響が先行するが、施策を着実に実行し増収・増益をめざす

(単位：億円)

		第1四半期				通期				
		実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率	前回見込	増減
低温物流	売上高合計	573	40	8%	24%	2,340	95	4%	2,340	0
	国内小計	437	6	1%	24%	1,800	56	3%	1,800	0
	物流ネットワーク	258	4	1%	24%	1,060	31	3%	1,060	0
	地域保管	179	2	1%	24%	740	26	4%	740	0
	海外	128	33	35%	26%	496	37	8%	496	0
	その他・共通	7	1	18%	17%	44	1	3%	44	0
	営業利益合計	34	△4	△9%	22%	153	7	5%	153	0
	国内小計	34	△2	△7%	24%	140	6	4%	140	0
	物流ネットワーク	13	△2	△13%	23%	57	2	3%	57	0
	地域保管	20	△0	△2%	25%	83	4	5%	83	0
	海外	4	1	26%	15%	23	2	11%	23	0
	その他・共通	△3	△2	-	-	△10	△1	-	△10	0

第1四半期

【国内】

(物流ネットワーク)

- ・3PL事業は外食向けの取扱いや冷食共同配送業務が拡大

(地域保管)

- ・家庭用商材は堅調に推移、業務用商材の荷動きも回復

(営業利益)

- ・TC事業の取扱い物量の特需が一巡、電力コスト上昇も響き減益

【海外】

(欧州)

- ・電力などのコストアップが顕在化
- ・前年度に実施した買収効果や大手量販店向け配送業務の拡大などにより増収・増益

通期見込

【国内】

(物流ネットワーク)

- ・冷食物流プラットフォームや幹線輸配送の拡大を図る

(地域保管)

- ・家庭用・業務用商材に加え、回復が見込まれる輸入貨物の集荷に注力

(営業利益)

- ・電力コストは今後さらに上昇する見込みだが、業務効率化や電力料金サーチャージの収受を推進

【海外】

- ・主力のオランダ、ドイツのけん引や英国での保管事業を拡大、コストアップへの対応も推進
- ・中国事業は上海ロックダウンの影響を受けるが、早期回復に注力

■ 水産・畜産ともにコスト増加に対応し収益確保を図る

(単位：億円)

		第1四半期				通期				
		実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	160	11	7%	30%	531	△146	△22%	531	0
	営業利益	1	△1	△56%	10%	10	0	4%	10	0
畜産	売上高	207	6	3%	24%	850	47	6%	850	0
	営業利益	2	△1	△35%	15%	16	4	37%	16	0

第1四半期

【水産】

- ・ 外食向けのエビ、海外向けの貝類の販売が好調に推移
- ・ 円安による調達コストの増加を吸収できず減益

【畜産】

- ・ 量販店への販売は減少したが、外食向けが回復
- ・ 輸入品の調達コストや飼料価格上昇が響き減益

通期見込

【水産】

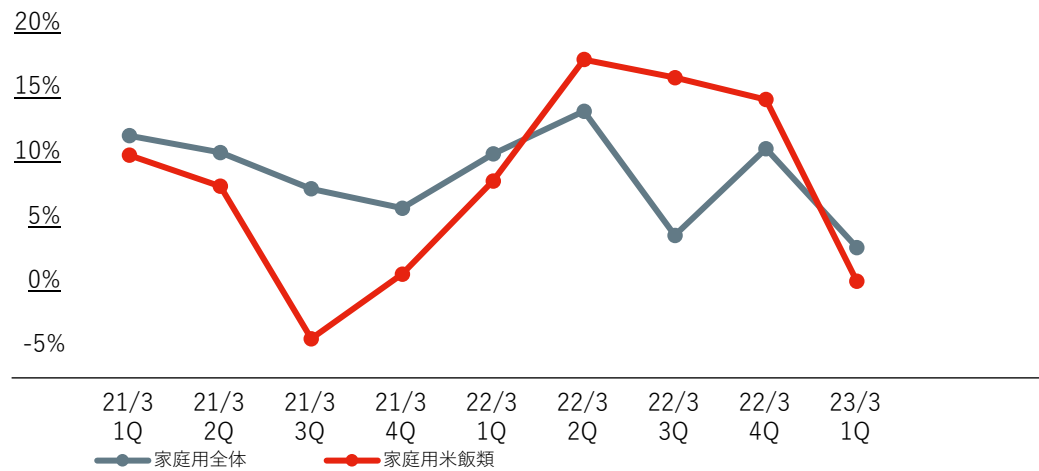
- ・ 強みのある商材への資源集中と拡販を継続
- ・ 仕入れに対応した販売価格への転嫁を進め、通期計画達成をめざす

【畜産】

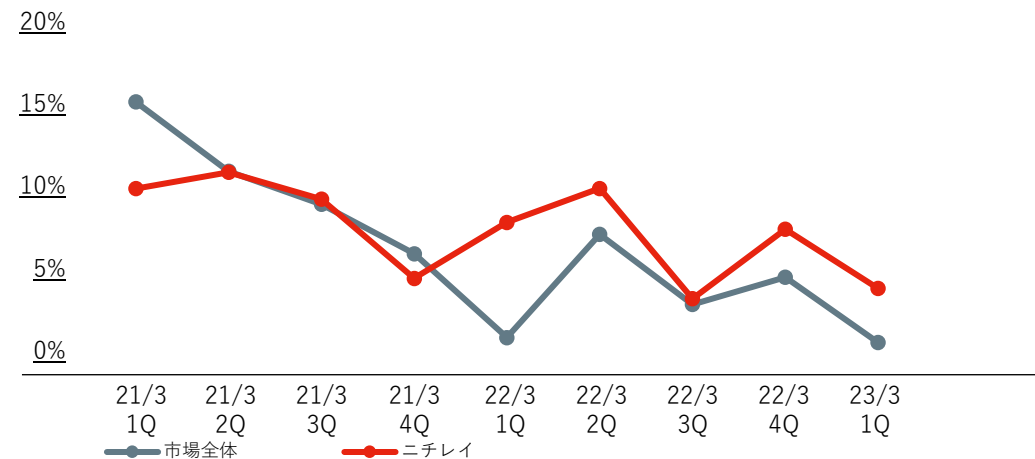
- ・ 「こだわり素材」の販売拡大に注力
- ・ 価格改定を実施し増益を確保

Appendix

当社の家庭用調理冷食の売上高前年同四半期比の推移



SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移



出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年四半期比の推移。購入ルート = 生協店舗を含む）

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。